

少し前の話になりますが、今年の4月8～10日に東京でHOME (Harmonising Outcome Measures for Eczema) VII meetingが開催されました。HOMEとはアトピー性皮膚炎の臨床試験(研究)において、コア(核)となる評価方法を国際的に統一していくことを目的で開催されている会議です。イギリスのノッティンガム大学のHywel Williams先生が中心になって創られました。今まで欧米で6回会議が開かれましたが、第7回会議は初めてアジアで開催された記念すべきものとなりました。

HOME VII meetingの会長は京都府立大学の加藤則人先生が、名誉会長は九州大学の古江増隆先生が、事務局長は九州大学の中原剛士先生が務められ、私も副会長として参加させていただきました。HOMEは医師、患者、統計学者、企業人など多職種が参加し、会議開催費用の多くは、参加者が支払う参加費と各国の皮膚科学会の援助や研究費などによって賄われており、製薬企業からの資金提供は一切受けずに運営することが条件になっています。今までも大学などで開催されることが多かったのですが、今回も私が所属する大学の同窓会館で開催されました。幸い、講堂や複数のSGL (small group learning) ルームを利用することができ、活発な討論が行われました。

HOMEでは4つの領域、すなわち、clinician-reported signs (医師が評価する徴候)、patient-reported symptoms (患者が評価する症状)、quality of life (生活の質、QOL)、long-term control (長期のコントロール)で、コアとなる評価方法を決定することを目標にしました。前回までのHOME meetingで、clinician-reported signsではEASI (Eczema Area and Severity Index)が、patient-reported symptomsではPOEM (Patient Oriented Eczema Measure)がコアとなる評価方法として採用されました。今回のHOME meetingでは新たに、QOLではDLQI (Dermatology Life Quality Index)、CDLQI (Children's DLQI)、IDQoL (Infant's Dermatitis QOL Index)が、long-term controlでは、ADCT (Atopic Dermatitis Control Tool)もしくはRECAP (Recap of atopic eczema)が採用されました。白熱した議論の末、参加者の投票によってコンセンサスが得られていく過程をつぶさに体験することができました。懇親会では、Williams先生が作詞・作曲された「HOME at Tokyo 2019」を皆で合唱し、和やかな雰囲気のもとで充実した会議が締めくくられました。

(佐伯秀久)

— 顧 問 —

大原國章 大塚藤男

— 編集委員 —

土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和 佐伯秀久

「皮膚科の臨床」第61巻 第10号 9月号

2019年9月1日発行 (毎月1回1日発行)

定 価 (本体 2,700 円+税)

年間購読料金 定価 (本体 42,100 円+税)

〔年間13冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発 行 所 金原出版株式会社

発 行 者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165 [編集室直通]

TEL 03(3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03(3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印 刷 所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- ・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構 (TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。